

危機からの脱却！送迎大改革

**青木 幹茂** [あおき・みきしげ]介護老人保健施設寺田ガーデン（岐阜県）
在宅部通所リハビリテーション統括リーダー

はじめに

当施設は、岐阜県岐阜市の北西部に1995年に開設し、2020年4月に隣接地へ新築移転しました。現在、入所者100名、通所リハビリ利用者120名を擁する大規模事業所として、通所リハビリやショートステイをご利用の皆さまの送迎業務はサービス運営の重要な柱となっています。

私は施設の安全運転管理者として、日々安全な送迎業務の実現に努めており、今回はその取り組みをご紹介します。

施設・職員紹介

2020年の新築移転を契機に、当法人は通所サービスの適正化を目的に隣接地にデイサービスを新設し、一部の通所リハビリ利用者をそちらへ移行しました。同時に、従来は長時間利用枠が中心であった通所リハビリにおいても、1～2時間の短時間枠や午前・午後の半日枠を新たに設け、ご利用者の多様なニーズに柔軟に対応できる体制を整えました。

短時間枠の拡充により送迎業務の重要性が高まったため、当初は介護職員が兼任していた送迎業務も、利用者数の増加に合わせ専属の送迎運転手を採用しました。現在、送迎運転手は13名体制ですが、平均年齢66歳と高齢化が進んでおり、今後の課題となっています。

送迎車両は、ハイエース1台、ミニバン8台、軽自動車6台の計15台を保有し、朝から夕方までフル稼働しています。なお、車両管理はリース会社に委託し

ており、定期点検や法定点検、冬季のスタッドレスタイヤ交換などをシーズン前に確実に手配しています。

安全・安心な送迎に向けて

送迎業務は、単に運転するだけでなく、ご利用者の誘導やご家族との連絡など、幅広い業務を含んでいます。そのなかでも、安全運転に関するリスク管理は最も重要な課題の1つです。

当施設では、送迎運転手専用の掲示スペースを設置し、注意喚起のポスターを掲示するとともに、毎日の朝礼で安全運転の注意事項を確認するなど、継続的な啓発活動を実施しています。

また、毎月開催される安全運転管理者と送迎運転手が参加するドライバーズ会議では、最近発生した事故事例の情報共有、運転手からの要望確認、送迎ルートや運行時間の見直し、安全運転講習の内容伝達、さらには県内での事故発生状況の情報共有など、幅広い議題をとり上げています。これらの取り組みにより、より安全で安心な送迎業務の実現をめざしています。

採用と運転手教育

採用面では、介護職員だけでなく送迎運転手も他業界との人材のとり合いが生じ、非常に厳しい状況が続いています。そこで、当施設では2つのアプローチを展開しています。

まず、施設近隣にお住まいの50～60代の方々をターゲットに、現役の送迎運転手をモデルとしたチ